

作文の部 高校生の部



示すは自分自身

名古屋市立工芸高等学校 建築システム科 3年
大谷 和 範

建設とは、建物・施設・道路などを新たに造り出すことであるため、一言に建設業といっても様々な仕事がある。それは、土木・建築・電気通信や設備など、方向性も同じではない。

その中でも「大工になる。」というのが私の夢である。テレビ番組を見ていたことがキッカケで、力仕事に汗水流しながらも頭の中では住む人のために何ができるか、どうすればより良くなるか考えていることを知り、強くあこがれるようになった。夢を叶えるために今、工業高校に通っている。そこで実習や勉強をする中で、建設に対してのイメージが良いものだけではないことを知った。「3K(キツイ・キタナイ・キケン)」である。朝が早く、肉体労働が多くてキツイだろうし、自然を相手にするため泥や土で汚れ、汗もかくそれに加え、高所での作業は落下の危険が伴う。建設業界が全体的に高齢化し、若い人材が少ないのはこういったことが理由付けられる。

確かに、辛く厳しいだけの仕事には誰一人として就きたがらないだろう。しかし私は、理解した今でも夢は変わらない。「辛い」に勝る「達成感」と「誇り」があると信じているからだ。道路をつくり、建築する。建設には、一人ではなく大勢が関わり、それぞれの役目を果たし、完成する。何もない場所から協力し合い、沢山の人の見えない思いが形になったときの「達成感」は言葉にできないほどの感動だと感じる。

私たちの生活の基本「衣・食・住」に、住む。即ち建築があるが、他の二つも建物がなければ安心して行えない。つまり建設業がなければ、人は人らしい生活ができないのだ。また、それだけではなく、大雨や落雷、竜巻に土砂崩れのような自然災害はいつ起きるかわからない。そんなときに建物がなけれ

ば命を落としてしまうだろう。一人一人の命を守っている。それは大きな「誇り」になる。けれども建物が必ず人の命を守れているわけではないと東日本大震災を通して知った。日本は地震大国であるため家は丈夫だといわれていた。しかし津波によって倒壊し、多くの命が失われた。現在の技術では耐えきれなかった建物もこれから向上し、どんな災害にも耐えきれ建物を作っていきたい。絶対に無理とは思わず、自分達の可能性を信じて、より強い誇りをもてるようにしたい。

幼少期からの夢が今では目標となり、大工になること。ではなく、大工になってからどうするか考えていかなければならない。感銘を受けた言葉がある。「仕事では常に百点を取り続けなければならない。」である。建設は〇から一をつくりだすこと。思いが詰まったそれを、自分が1点を失敗したために壊れてしまうなどはあってはならない。格好いい、面白そうといった楽しみだけではなく、失敗は許されないこと、命を守る責任に心配もするようになったが、この言葉を忘れず夢の続きも頑張っていきたい。

建設に対するイメージは良いものだけではない。自分自身が、そうではない。と証明することができれば変えられる。辛いに勝る達成感と誇りに、これからの可能性を信じていきたい。